

## 5 サインゲンの品種比較試験

### 試験の目的

市内では、平成26年から「ピテナ」（雪印種苗）を栽培していますが、当該品種はS規格品（12cm以上14cm未満）が多く、市場評価が高いM規格品（14cm以上16cm未満）が少ないことが課題となっています。このことから、M規格の長さで曲がり莢が少なく、当地での栽培に適する品種を模索するため、品種比較試験を実施しました。

### 関係先

旭川青果物生産出荷協議会 豆部会(以下「部会」と表記します。)

### 供試品種

No	品種名	種苗会社	No	品種名	種苗会社
①	ピテナ（標準品種）	雪印種苗	⑤	ブルーレーク47	渡辺採種場
②	BN-136	雪印種苗	⑥	スーパーライト	トーホク
③	サクサク王子ネオ	サカタのタネ	⑦	シャイニー	トキタ種苗
④	れんたろう	サカタのタネ	※わい性・つるなし・丸莢種に限定		

### 試験作期

	作期1	作期2
播種	5月9日	6月26日
収穫期間	6月30日～8月3日	8月11日～9月28日

### 栽植密度等

- (1) 作型：雨よけハウス栽培
- (2) 栽植密度等：床幅90cm（高畝），2条千鳥植え（条間50cm×株間30cm），370株/a  
圃場直播（1穴4粒）1株仕立て，2反復，ダークグリーンマルチ使用
- (3) 規格等：部会出荷基準に準拠

### 評価基準

発芽率，収量性，作業性，外観品質（莢長，莢幅，一莢重），日持ち性について評価を行いました。

### 試験結果（作期1・2の結果から）

- (1) 発芽率：全ての品種で80%以上の発芽率となりました。発芽日数は、ほぼ同日に発芽したため品種間差は見られませんでした。
- (2) 収量性：総本数及び総収量は「サクサク王子ネオ」が最も多収となりましたが、A品の収量では、A品率の高かった「ピテナ」が最も多収となりました。
- (3) 作業性：立性で分枝数が少なく，莢を見つけやすい「BN-136」と「れんたろう」の2品種が優れていました。
- (4) 一莢重：「ブルーレーク47」が最も太くて一莢重が重かったのに対し、「シャイニー」は最も細くて軽い品種でした。両品種の一莢重の差は約2gありました。
- (5) 日持ち性：品質の劣化を評価するため，一定量を5℃の冷蔵庫で7日間保管後の重量減少率を調査しました。結果，「ピテナ」が最も劣化が少ない品種でした。





表2 各作期における一莢重・A品率・収穫量

品種	発芽率 (2作期平均) (%)	作期1				作期2			
		一莢重 (g)	A品率 (%)	1aあたりの収量(kg)		一莢重 (g)	A品率 (%)	1aあたりの収量(kg)	
				総収量	うちA品			総収量	うちA品
ピテナ	98	5.1	42	196	89	5.4	47	260	129
BN-136	99	5.4	28	241	62	5.4	9	188	17
サクサク王子ネオ	94	5.1	24	291	68	4.9	21	277	60
れんたろう	98	(3.1)	79	(108)	(86)	(3.2)	46	(143)	(72)
ブルーレーク47	96	6.0	20	217	46	6.0	41	230	98
スーパーライト	99	5.0	39	179	70	5.4	34	199	72
シャイニー	86	3.9	37	227	80	4.0	43	216	94

※「れんたろう」は、M規格の長さまで至らなかったため、一莢重及び収量はS規格品で集計しました。

### 各品種の特性

2作期の結果から、標準品種を含め比較的结果の良かった次の4品種を御紹介します。

<b>ピテナ (標準品種)</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲莢が極めて少ない。</li> <li>・A品率及び規格内莢率が高い。</li> <li>・供試品種の中では最も劣化しにくい。</li> <li>・高温環境下では収穫期が遅れる傾向がある。</li> </ul>	
<b>スーパーライト</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・莢の形状がピテナと類似している。</li> <li>・曲莢が少なく、規格内莢率が高い。</li> <li>・樹勢が旺盛で草丈が高い。</li> <li>・収穫本数が少ない。</li> </ul>	
<b>シャイニー</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫本数が多い。</li> <li>・曲莢が極めて少なく、規格内莢率が高い。</li> <li>・莢が細く、一莢重が軽い。</li> <li>・ピテナに比べ発芽がやや劣る。</li> </ul>	
<b>サクサク王子ネオ</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫本数が多い。</li> <li>・莢が柔らかく食味が良い。</li> <li>・曲莢が多く、規格内莢率が低い。</li> <li>・灰色かび病にやや弱い傾向がある。</li> </ul>	

### まとめ

本試験で供試した品種の中では、現在の基幹品種である「ピテナ」が規格内収量・A品率ともに高く、また、冷蔵環境下での劣化が少なかったことから、M規格においても最も適応性が高い品種となりました。